

社寺名 高家八幡神社 (松山市北斎院町198)

奉納者 関家百太郎他10名

奉納年 明治24年(1891年)

明治廿四年卯一月	①	②	③	④	⑤	敬掲
	一色清次郎	宮崎馬次郎	戸井田傳太郎	一色元太郎		
関家百太郎恵棋発○人	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
	宮寄源太郎	重富太郎	一色亀五郎	重川松太郎	関谷重三郎	

### 解 説

平成22年3月に「坂の上の雲ミュージアム」において、愛媛和算研究会は松山市との共催で「愛媛の算額展」を開催した。その時、市民の方からこの算額の存在の情報が寄せられた。3回に渡り調査したが十分に判読できなかった。

しかし、明治に入り和算が衰微していく中、関家百太郎を中心にして和算入門の開平、鈎股弦の定理(三平方の定理)、一次方程式等をグループで学び、その学習成果の喜びと感謝の気持ちを込めて奉納されたものと思われる。

「術曰」が額の中心に書かれ、その計算法(解法)が強調されているので、正確に読めた「は」「に」のブロックを紹介し、その解答を示す。

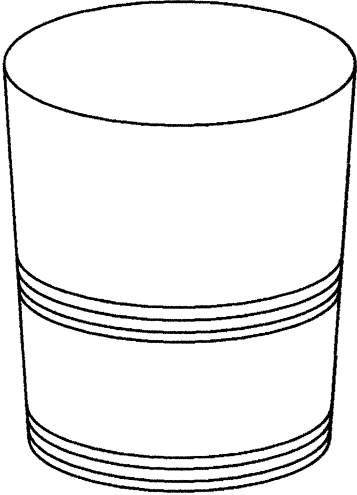
# 高家八幡神社

①：重川松太郎

今如图桶アリ上径四尺五寸底径三尺九寸  
 深七尺九寸六歩  
 ニシテ底径ヨリ四尺  
 五寸高ノ口径問

答 四尺貳寸三九

術曰口径四尺五寸ノ内底径三尺九寸減シテ余六寸  
 成是シテ深七尺九寸六歩ヲ法ニテ實ヲ除シ七五三七  
 六八ト是ニ四尺五寸ヲ乘シ三寸三九五六ト成是ニ底径  
 三尺九寸ヲ加テ四尺貳寸三九ヲ得ル

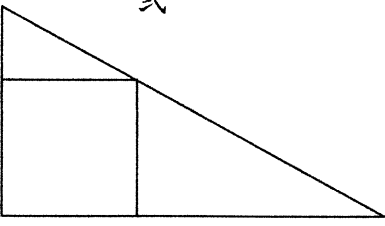


重川松太郎

②：戸井田傳太郎

今如图方面積貳坪七合貳勺貳五ニシテ鉤拾八寸  
 及貳拾壹寸玄方面ヲ得問

術曰積貳坪七合貳勺二五  
 開平シ面拾六寸五分得  
 引ニ鉤拾八寸ヲ累シテ三百貳  
 拾四成是ヲ天名付又別ニ  
 及ヲ累シテ四百四拾壹  
 成是ニ天数ヲ加エ七百六拾五成是ヲ開平シ  
 玄貳拾七寸六五八得



答  
 方面十六寸五分  
 玄貳拾七寸六五八

戸井田傳太郎